

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473100913
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会
事業所名	クロスハート港南・横浜
訪問調査日	令和2年2月21日
評価確定日	令和2年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和1年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473100913	事業の開始年月日	平成17年3月1日	
		指定年月日	平成17年3月1日	
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会			
事業所名	クロスハート港南・横浜			
所在地	(〒233-0011) 横浜市港南区東永谷1-37-5			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和2年2月2日	評価結果 市町村受理日	令和2年5月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型のホームの強みを活かし、地域の方とご入居者様との交流の場をたくさん作りながら、防災訓練の参加や地域でのイベントの参加やお手伝いを通して、高齢者ホームや認知症について、地域の方に知っていただける発信の場を作っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和2年2月21日	評価機関 評価決定日	令和2年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は社会福祉法人伸こう福祉会の経営です。同法人は神奈川県内で特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、ショートステイ、小規模多機能型居宅介護、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援、地域ケアプラザ、障がい者グループホーム、就労支援、保育園等の多岐に亘る福祉サービスを展開しています。ここ「クロスハート港南・横浜」は京浜急行または横浜市営地下鉄「上大岡駅」から「南高校行き」のバスに乗り、「桜台」停留所下車して徒歩5分程の場所にあります。
●法人では、職員一人ひとりが介護の専門職として「知識や資格」を身に付け、更なる質の高いケアサービスが出来るように、職員の育成に注力して取り組んでいます。入職時に入職者研修をはじめ、定期的な内部研修(身体拘束、認知症、虐待について)実施しています。外部研修では、参加を奨励しており、介護職員としての質の確保に努めています。
●地域との交流については、自治会のお祭りのお神輿、夏祭りに参加したり、近隣の小学校で行われる地域の運動会、盆踊り、にも積極的に散会しています。また、今年から認知症サポーター講座を地域の方に行ったり、併設施設の看護小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に地域の方への「給水所」としてお茶や水分補給の提供を行い、より一層地域に根差した事業所を心がけ、地域住民をはじめ、地域包括支援センター等の関わりも多く持つようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	クロスハート港南・横浜
ユニット名	A棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人基本理念「たぐさんのよきものを人生の先輩たち後輩たち、そして地域にささぐ」を理念に少しづつではありますが、地域の方との関わりが増えてきております。	「たぐさんのよきものを人生の先輩たち後輩たち、そして地域にささぐ」を法人基本理念としてフロアと玄関に掲示し、職員一人ひとりが地域にささげるよう取り組んでいます。毎年配付されるクロスハートベーシックの「倫理」項目で理念に沿った研修を行っています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のお祭りの際のお神輿の巡回や夏祭りの参加を行っています。また下永谷小学校の生徒の授業の一環としての発表の場で交流の場としてのホームへの来訪があったり、運動会の参加に小学校へ来訪しております。地域の方への「給水所」としてお茶や水分補給の提供をしています。	自治会に加入しており、夏祭りに参加しています。お祭りのお神輿の巡回の際は駐車場を休憩所として提供したり、事業所主催のさつま芋パーティーでは民生委員やボランティアの方々に来ていただいています。今年から「給水所」として事業所でお茶などを近隣の小学生や地域の方々に提供し、地域の交流の場を広げています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居や認知症に関する相談や発信を自治会等を通して行っています。また、運営推進会議等で、家族や地域の方の、介護についての質問に対応し、介護の理解を深めております。地域ケアプラザと連携を図り、地域の方々向けの認知症サポーター養成講座に携わっております。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催で、具体的な意見を頂き、取り組みの報告をしながら、より地域に根ざしたホーム作りに取り組んでいます。	2ヶ月毎に開催し、自治会長、民生委員、地域ケアプラザ、家族が参加しています。会議では利用者の状況や事業所の活動報告、避難訓練での話等を行い参加者に意見を頂き、サービスの向上に取り組んでいます。地域の方からは地域の活動や情報を頂いています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近隣の地域包括支援センターとは、運営推進会議開催時に意見交換を行ったり、地域ケア会議での交流や、認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターの地域の方々向けの外出イベントへの協力をさせていただいております。	横浜市や港南区から研修の案内を頂き積極的に参加しています。港南区から〇〇〇援隊（まるまるおうえんたい）の依頼があり、ホームが地域ぐるみで何かできないかについて支え合いネットワークの方々話し合いを行ないました。また、東永谷ケアプラザと主催の認知症サポーター養成講座の講師を務めております。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員、看護師や主治医と共に異変が無いか情報共有を行っています。 事業所内での研修を行い、職員と拘束についての話し合いを行い、改善に向けての取り組みを行っています。	3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を設置し、代表の4人で話し合い、話し合った結果をミーティングで職員に報告し、職員で情報共有を行っています。研修については、外部研修や事業所内研修に参加して、研修内容を職員で共有しています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員、看護師や主治医と共に情報共有を行っています。 事業所内での研修を行い、職員と拘束についての話し合いを行い、委員会を設けて改善に向けての取り組みを行っています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について研修があれば参加をして理解を深めております。 実際に成年後見人制度をご利用されている方がおり、情報共有を行いながら活用しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書および契約書に関して入居日前に場を設け、十分な時間を使って説明を行い、ご承諾を頂いております。 不安や疑問等についても、いつでも伺うことが出来るように、声かけや連絡を行っています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見・要望のお申立てについて掲載しながら、日々管理者や職員はご入居者や来訪されたご家族にお声をかけ交流を行い、頂いた意見は、職員と共有しその後の運営に反映を行っている。	契約時に重要事項説明書に苦情相談窓口とその対応についての説明を行っています。家族とは、電話や来訪時に声掛けをして意見、要望をお伺いしています。頂いた意見は職員と共有しながら運営に反映させています。また、法人理事長宛の意見箱を設置して、頂いた意見は直接家族に連絡がいく仕組みになっています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長は「理事長ボックス」を設け職員やご家族の意見や提案をきいて、対応を行っています。 管理者は、面談を行い意見を聞いて改善を行っています。また、月1回の職員会議でも提案が出たときに反映を行っています。	日頃から職員と話しやすいように心掛けています。職員からの意見や提案は、月1回の全体会議、ユニット会議、毎日の申し送りの時に職員から話を聞いています。また、年1回の職員と面談を行ない、成長支援シートを参考に、個人の目標や振り返りを行なっています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の設置を行い、職員には成長支援シートを作成し、評価を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は入職者向けの研修を行い、また定期的に内部研修を行っている。 また、外部研修参加を奨励しており、介護職員としての質の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会の会員となり、ネットワーク作りや相互訪問等の活動を行いサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い、困っていることや不安なこと、要望等のヒアリングを行い、安心をもって過ごして頂けるように関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い、困っていることや不安なこと、要望等のヒアリングを行い、安心をもって選んで頂けるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問調査を行い、困っていることや不安なこと、要望等のヒアリングを行い、前記をふまえた支援内容を検討し、対応を行うことをお伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助や支援を通して、お話を伺いコミュニケーションを深めていき、当施設を住居と思って頂けるように、関係の構築を図っています。また、庁会議を行うことで、職員全体でその方の理解を深めます		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	春と冬の行事に、ご家族にご参加頂き、一緒に過ごす時間を提供しながら共に楽しんで頂いています。 また、日々の来訪時にも、ご入居者とご家族の時間を作れる環境を提供しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談をしながら、馴染みの方の来訪を受け入れたり、自宅に一時帰られたりする事を提供して関係が途切れないように配慮しています。	家族、友人や知人の面会も多くあります。家族と一緒に行きつけの美容院や外食に行かれる方や年末年始に自宅に帰られ、親戚の方に会う方もいらっしゃいます。年賀状のやり取り、携帯電話を持っている方もおります。職員は、友人や知人の関係が途切れないように配慮しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最初に職員が間に入り、入居者同士の円滑な交流を支援しつつ、関係の構築を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後もお手紙や電話でのご様子伺いや、病院や施設等へのお見舞いに行き、その際には、可能な限りのお手伝いも申し出を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやヒアリングを通して希望や意向の把握に努め、困難な方には、日々の生活の記録等で把握を行い、本位を検討しながら支援を行っている。	入居前の面談時に家族や利用者十分なアセスメントを行い、過去の生活歴、思いや意向、暮らし方の希望や意向をアセスメントシートで把握しています。入居後は利用者の日々のケアの中で傾聴している「生活の記録」に記載し、ケアプランに反映させています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人内でのクロスハートならではのアセスメント表の作成を行い、その人の過去の暮らしから現在までの暮らしや状態、状況、趣味、悩みごとなどなど、細かなところまで入居時にアセスメントを行い、その人らしい生活を送っていただく支援をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日「生活の記録」への記載を行い、状況変化が激しいときには時間単位で記入出来る「介護記録」の記載を行っており、また往診通院に関して記録をとっており、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時は、ご本人とご家族、必要に応じて医療関係者にヒアリングを行い、職員によるモニタリングを集約して介護計画書を作成しています。	入居時に暫定1ヶ月のケアプランを作成し、その後、3ヶ月毎の見直しを行っています。カンファレンスは、前段階で欠席者からの意見をもらい出席者でモニタリングを行わない現状に即したケアプランに作成しています。急変があれば、その都度見直しを行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日「生活の記録」への記載を行い、状況変化が激しいときには時間単位で記入出来る「介護記録」の記載を行い、職員会議で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの対応については、早急な対応が必要な場合には、その場で行い、その他定期的な職員会議内で対応の協議を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントの参加や施設内イベントに地域の方を招待するほか、小学校の課外授業の場を提供し、ご利用者が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の希望を伺い、対応を行っている。 また往診時の結果で連絡が必要な場合には、適宜お話をして対応を行っている。	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、事業者の提携医について説明したうえで、本人と家族の意向を尊重して主治医を決めて頂くようにしています。現在は全員がかかりつけ医の往診を月2回、歯科は月に2回の往診と口腔ケア衛生士が週1回の往診します。看護師は隣の訪問看護クロスハート港南・横浜の方が週1回の巡回となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来訪する訪問看護師に「訪問看護の記録」を用いて、申し送りを行い、終了後も記録を用いて看護師からの申し送りを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の定期的なお見舞いの際に看護師や医師から現状の確認や今後の予想等お話を伺い、ご家族に確認を取った上での施設側からの要望等をお伝えし、退院に向けての話し合いの際には施設側も同席し病院側との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に一度お話しを行い、入居後予兆が出てきた際には、ご家族様と話し合いを行い、その後の方針を徐々に決めていき、その際には医療関係者とも話し合いを行っております。	入居時に重度化、看取りのについて説明し、入居後に予兆が出たきた時に再度話し、方針を決めています。基本的には初診時に医師と家族が顔を合わせる対応をしています。また、看取りに関するマニュアル「旅立ちのときを迎えて」を使って職員の研修資料としての活用や、家族に配布して看取りについて考慮して頂いています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応のマニュアルを設置し、可能な限り全職員が緊急対応の経験をつんで、その際に必要な対応や修正方法は施設長より伝えて取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練に通じて全職員が参加し、自主訓練を行い、勉強の場をもって対応を身につけています。	防災訓練は年2回実施しています。1回は消防署立ち合いのもと行い、水消火器を使用した訓練を行っています。また、民生委員の方が訓練時に見守りとして参加して頂いています。備蓄については、水や食料、ラジオ、簡易トイレ等を保管しています。また、小学校で行われる地域の防災訓練に参加しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるご入居者の方々に対し、尊敬と時には親しみを込めた声かけに配慮しています。居室入室時にはノックをして声をかけながら入室します。	法人では、支援者として「尊厳を持って生きる人の生活を守ること」に重点を置き、法人内研修で「人権」について理解を深めています。利用者には本人は否定しない配慮や、何かをして頂いたら感謝の気持ちを伝えるように配慮しています。呼びかたに関しては、家族の要望を取り入れ個々で対応しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	履歴で知りえた情報を基に、声かけを行い、希望等を伺ったり問いかけを行ったりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はありますが、ご入居者の方のペースを優先し、頻回に職員の訪室を希望される方や廊下を往復される方に対しても可能な限り付添い、不安を軽減してご利用者のペースで暮らせるように支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日のお着替えを選んで頂いたり、整容の支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、入居者の方と食事の準備や片付けを行っている。	食材とメニューを業者から発注し、職員が調理して個々に合わせた食事を提供しています。週1回は、自由食の日として利用者の希望やいつも食べていない料理を職員が考え、食材を買いに行き手作りの料理を提供しています。また、食事の準備や片付け（食器を洗う、拭く等）は出来る方への手伝って頂いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や訪問看護師の助言を頂きながら、摂取量を記録できるように「水分表」を活用している。また個人の嗜好に合わせたお飲み物や季節や雰囲気に応じたお飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声かけをおこない、支援の必要がある利用者には介助をしながら、毎食後の口腔ケアを行っている。 また、毎週訪問される歯科衛生士にアドバイスを頂きながら支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での排泄介助を行いながら、記録を残しパターンを探り、その方に合った誘導の支援を行っている。	排泄は、基本的に定時での排泄介助となっており、利用者は各居室のトイレを使用しています。法人の全事業所には各居室にトイレが完備されているため、人目を気にせずトイレ誘導が行えるのも特色となっています。また、排泄チェック表を参考にして、その方に合った誘導の支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や乳製品の接種及び医師との連携、散歩等の運動の確保を個々の利用者に対して行い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人お一人の入浴へのご案内なので、時間帯は決まっていますが、無理なくお声かけをして、自立されている方にはお一人で入浴していただき見守りを行っています。	入浴は週2回の1日3人ずつ入って頂いています。無理のない声かけをしていますが、拒否される方には時間をおいての声かけ、日程を変更する等の対応をして入浴支援をしています。1階にはリフト浴が設置しており、重度化した方でも浴槽に浸かって頂くことも可能となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて居室で休息や睡眠をとっていただいております。 その際には、室温調整や灯りの調整を行うように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬情報をファイリングし職員の閲覧がいつでも出来るようにしており、また往診時の処方変更については、「医療連携の記録」に記載して職員に通知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性に合わせて、役割分担や楽しみごとの支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩等は要望に応じて、又はお誘いかけを行いながら行っている。 遠方等は行事などと絡ませながら支援を行い、また精神科の先生と相談しながら混乱等が起きない様に支援を行っている。	天気に応じて近隣の公園の散歩、ケアプラザへの教室（刺繍など）の参加をしています。また、施設の中庭が広く、施設内の周り歩いたりする方もいらっしゃいます。遠方等の外出については、行事等を絡ませて、車で河津桜を見に行く等の外出支援を行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、お金を所持する方はいらっしゃいませんが、必要に応じてお買い物に同行し、お金のやり取りの際に支援を行うように努めていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をおかけいただいたり、手紙の投函を行い、かかってきた電話の取次ぎや届いた手紙をご本人様にお渡しする等支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、適度な音量で音楽を流し、灯りも暖色のものを使用しております。障害物等を取り除き歩きやすさを優先し、ソファ等を設置してくつろぎの空間を作っています。温度管理は、床暖房やエアコンを職員の方で調整して支援を行っています。	施設のような雰囲気にはせず、備品、食器にも気を遣い、壁の絵や油絵で高級感を出して、大人の品格を感じられる空間になっています。利用者の心の豊かさを優先して共有空間は歩きやすいようにし、ソファや食堂テーブル、置物で適度に区切りをつけて、一人ひとりに合わせた空間作りとなっています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや置物や食堂テーブルで適度に区切りをつけ、居場所の工夫を行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人ご家族と持ち込み品や配置の相談を行っています。また、入居後もご利用の方が暮らしやすい環境作りに努めています。	エアコン、クローゼット、トイレ、洗面台、が備えつけられおり、入居時に利用者の使い慣れた持ち物（家族写真、人形、テレビ、仏壇、タンス）を持って来て頂き、利用者の暮らしやすい環境作りに努めています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立サポート表や暮らしのシートを活用して、安全且つ個々のご利用者が出来る自立した工夫を行っている			

目標達成計画

事業所

クロスハート港南・横浜

作成日

令和2年5月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の住民のお役に立 てるという役割が不足 している	地域の方々にホームへ 足を運んでくださるよ うなイベントを行う。	地域の方も参加できる 買い物イベントを行 う。	2020年内

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	クロスハート港南・横浜
ユニット名	B棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人基本理念「たくさんのよきものを人生の先輩たち後輩たち、そして地域にささぐ」を理念に少しずつではありますが、地域の方との関わりが増えてきております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のお祭りの際のお神輿の巡回や夏祭りの参加を行っています。また下永谷小学校の生徒の授業の一環としての発表の場で交流の場としてのホームへの来訪があったり、運動会の参加に小学校へ来訪しております。地域の方への「給水所」としてお茶や水分補給の提供をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居や認知症に関する相談や発信を自治会等を通して行っています。また、運営推進会議等で、家族や地域の方の、介護についての質問に対応し、介護の理解を深めております。地域ケアプラザと連携を図り、地域の方々向けの認知症サポーター養成講座に携わっております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催で、具体的な意見を頂き、取り組みの報告をしながら、より地域に根ざしたホーム作りに取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	近隣の地域包括支援センターとは、運営推進会議開催時に意見交換を行ったり、地域ケア会議での交流や、認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターの地域の方々向けの外出イベントへの協力をさせていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員、看護師や主治医と共に異変が無いか情報共有を行っています。 事業所内での研修を行い、職員と拘束についての話し合いを行い、改善に向けての取り組みを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員、看護師や主治医と共に情報共有を行っています。 事業所内での研修を行い、職員と拘束についての話し合いを行い、委員会を設けて改善に向けての取り組みを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について研修があれば参加をして理解を深めております。 実際に成年後見人制度をご利用されている方がおり、情報共有を行いながら活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書および契約書に関して入居日前に場を設け、十分な時間を使って説明を行い、ご承諾を頂いております。 不安や疑問等についても、いつでも伺うことが出来るように、声かけや連絡を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見・要望のお申立てについて掲載しながら、日々管理者や職員はご入居者や来訪されたご家族にお声をかけ交流を行い、頂いた意見は、職員と共有しその後の運営に反映を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長は「理事長ボックス」を設け職員やご家族の意見や提案をきいて、対応を行っています。管理者は、面談を行い意見を聞いて改善を行っています。また、月1回の職員会議でも提案が出たときに反映を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の設置を行い、職員には成長支援シートを作成し、評価を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は入職者向けの研修を行い、また定期的に内部研修を行っている。また、外部研修参加を奨励しており、介護職員としての質の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会の会員となり、ネットワーク作りや相互訪問等の活動を行いサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い、困っていることや不安なこと、要望等のヒアリングを行い、安心をもって過ごして頂けるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い、困っていることや不安なこと、要望等のヒアリングを行い、安心をもって選んで頂けるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問調査を行い、困っていることや不安なこと、要望等のヒアリングを行い、前記をふまえた支援内容を検討し、対応を行うことをお伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助や支援を通して、お話を伺いコミュニケーションを深めていき、当施設を住居と思って頂けるように、関係の構築を図っています。また、庁会議を行うことで、職員全体でその方の理解を深めます		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	春と冬の行事に、ご家族にご参加頂き、一緒に過ごす時間を提供しながら共に楽しんで頂いています。 また、日々の来訪時にも、ご入居者とご家族の時間を作る環境を提供しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談をしながら、馴染みの方の来訪を受け入れたり、自宅に一時帰られたりする事を提供して関係が途切れないように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最初に職員が間に入り、入居者同士の円滑な交流を支援しつつ、関係の構築を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後もお手紙や電話でのご様子伺いや、病院や施設等へのお見舞いに行き、その際には、可能な限りのお手伝いも申し出を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやヒアリングを通して希望や意向の把握に努め、困難な方には、日々の生活の記録等で把握を行い、本位を検討しながら支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人内でのクロスハートならではのアセスメント表の作成を行い、その人の過去の暮らしから現在までの暮らしや状態、状況、趣味、悩みごとなどなど、細かなところまで入居時にアセスメントを行い、その人らしい生活を送っていただく支援をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日「生活の記録」への記載を行い、状況変化が激しいときには時間単位で記入出来る「介護記録」の記載を行っており、また往診通院に関して記録をとっており、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時は、ご本人とご家族、必要に応じて医療関係者にヒアリングを行い、職員によるモニタリングを集約して介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日「生活の記録」への記載を行い、状況変化が激しいときには時間単位で記入出来る「介護記録」の記載を行い、職員会議で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの対応については、早急な対応が必要な場合には、その場で行い、その他定期的な職員会議内で対応の協議を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントの参加や施設内イベントに地域の方を招待するほか、小学校の課外授業の場を提供し、ご利用者が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の希望を伺い、対応を行っている。 また往診時の結果で連絡が必要な場合には、適宜お話をしして対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来訪する訪問看護師に「訪問看護の記録」を用いて、申し送りを行い、終了後も記録を用いて看護師からの申し送りを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の定期的なお見舞いの際に看護師や医師から現状の確認や今後の予想等お話を伺い、ご家族に確認を取った上での施設側からの要望等をお伝えし、退院に向けての話し合いの際には施設側も同席し病院側との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に一度お話しを行い、入居後予兆が出てきた際には、ご家族様と話し合いを行い、その後の方針を徐々に決めていき、その際には医療関係者とも話し合いを行っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応のマニュアルを設置し、可能な限り全職員が緊急対応の経験をつんで、その際に必要な対応や修正方法は施設長より伝えて取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練に通じて全職員が参加し、自主訓練を行い、勉強の場をもって対応を身につけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるご入居者の方々に対し、尊敬と時には親しみを込めた声かけに配慮しています。居室入室時にはノックをして声をかけながら入室します。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	履歴で知りえた情報を基に、声かけを行い、希望等を伺ったり問いかけを行ったりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はありますが、ご入居者の方のペースを優先し、頻回に職員の訪室を希望される方や廊下を往復される方に対しても可能な限り付添い、不安を軽減してご利用者のペースで暮らせるように支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日のお着替えを選んで頂いたり、整容の支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、入居者の方と食事の準備や片付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や訪問看護師の助言を頂きながら、摂取量を記録できるように「水分表」を活用している。また個人の嗜好に合わせたお飲み物や季節や雰囲気に応じたお飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声かけをおこない、支援の必要がある利用者には介助をしながら、毎食後の口腔ケアを行っている。 また、毎週訪問される歯科衛生士にアドバイスを頂きながら支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での排泄介助を行いながら、記録を残しパターンを探り、その方に合った誘導の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や乳製品の接種及び医師との連携、散歩等の運動の確保を個々の利用者に対して行い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人お一人の入浴へのご案内なので、時間帯は決まっていますが、無理なくお声かけをして、自立されている方にはお一人で入浴していただき見守りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて居室で休息や睡眠をとっていただいております。 その際には、室温調整や灯りの調整を行うように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬情報をファイリングし職員の閲覧がいつでも出来るようにしており、また往診時の処方変更については、「医療連携の記録」に記載して職員に通知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性に合わせて、役割分担や楽しみごとの支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩等は要望に応じて、又はお誘いかけを行いながら行っている。 遠方等は行事などと絡ませながら支援を行い、また精神科の先生と相談しながら混乱等が起きない様に支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、お金を所持する方はいらっしゃいませんが、必要に応じてお買い物に同行し、お金のやり取りの際に支援を行うように努めていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をおかけいただいたり、手紙の投函を行い、かかってきた電話の取次ぎや届いた手紙をご本人様にお渡しする等支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、適度な音量で音楽を流し、灯りも暖色のものを使用しております。障害物等を取り除き歩きやすさを優先し、ソファ等を設置してくつろぎの空間を作っています。温度管理は、床暖房やエアコンを職員の方で調整して支援を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや置物や食堂テーブルで適度に区切りをつけ、居場所の工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人ご家族と持ち込み品や配置の相談を行っています。また、入居後もご利用の方が暮らしやすい環境作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立サポート表や暮らしのシートを活用して、安全且つ個々のご利用者が出来る自立した工夫を行っている		

目 標 達 成 計 画

事業所

クロスハート港南・横浜

作成日

令和2年5月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域の住民のお役に立 てるといふ役割が不足 している	地域の方々にホームへ 足を運んでくださるよ うなイベントを行う。	地域の方も参加できる 買い物イベントを行 う。	2020年内

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。